

お知らせ

- **きのこ観察会**；10月21日（日曜日）は中央博植物学研究科吹春先生指導のきのこ観察会です。携行品；弁当、飲み物、雨具、お椀、あればカメラ。9時40分第一駐車場集合。ご家族や友人の同伴歓迎。
- **年内の活動日**；10月21日、11月18日（日）12月1日（土）、12月2日（日）
- **忘年会のご案内**；12月1日（土曜日）17時30分於鎌田屋旅館（君津市豊英）会費約10,000（宿泊含む、宿泊なしは約半額）。参加申込みは上記事務局アドレス又は電話宛11月18日までに連絡下さい。

活動の記録

10月8日（月）雨 チェーンソー安全研修 参加会員9名、林業サービスセンター；木村講師、ちば里山センター；森事務局長などスタッフ3名、ほかビジター1
迫力ある木村講師のレクチャーに続き、ソーチェーンの目立て実習と伐木実習。強雨のため実習を短縮して切り上げたが、少人数のせいもあって講師のきめ細かい具体的な指摘・指導のポイントが皆によく見え、有益な充実した研修でした。木村先生、森事務局長はじめ里山センタースタッフの皆様、有難うございました。雨の中無事研修できたのは急遽早出して架設されたテントのおかげです。早出の長村・久我・西田さん、有難うございました。



目立て実習；地面に線を引いて角度合せ



伐木実習；受け口は伐倒方向に直角に！



伐木実習；伐倒方向OK！弦厚さ適！合格！

研修受講者の感想

（久我）チェーンソーの目立てを実際に丁寧に指導して頂き、大いに役立ちました。ヤスリ使用時の角度、研磨の回数、研磨の頻度、チェーンの固定法など。

（真鍋）目立て実習で「力のかかりにくい裏側を先に目立てする」という裏技には「目からウロコ」。伐木実習では・深すぎない「受け口」・「受け口」に平行する「追い口」・「つる」の適正な幅・倒木時退避と4点もの指導を受け、テキストでは理解できても実行の難しさを実感。研修・実習の繰り返し受講の必要性を痛感した。

（福島）伐採本数は少なかったが、実際に立木を伐採して、その切り株を見ながら作業を振り返り、反省点や注意すべき点をみんなで検討できたことが非常に良かったと思う。今後のことになるが、チェーンソーの取り扱いに慣れていない人が多いので、いきなり伐採作業に取り組む前に、玉切りや丸太を輪切りにする作業を通してもっとチェーンソーの取り扱いに慣れることが必要だと思う。

（西田）＜今回の講習で学んだこと＞伐木作業でのなかなか出来ない安全のポイント・・・木が倒れ始めたら**一目散に**“予め決めておいた”3m以上離れた木の陰の退避場所へ。つつい木が倒れる様を見届けたくになります。木の根元の跳ね上がり、枯れ枝の落下など思わぬことが起きたら若くない身体では反応しきれそうにありません。

＜チェーンソー目立てのコツ＞・目立てはやりにくい側を先にやるとバランスよく砥げる・身体と動かす腕の方向は固定し、砥ぐ刃の位置もバーの一定の場所とすること（刃は一個砥いでは一個ずらす）・地面などにヤスリを動かす方向を描いておくと一定の角度となる・チェーンが倒れないように指で押さえながらヤスリをかける・ヤスリの径の1/5が上に出るようにして砥ぐ＜伐木のコツ＞・受け口、追い口は正確に・作業の途中で何度も確かめながら丁寧に・水平に切るコツはひざをつけて身体保持しチェーンソーを操作する・直径の1/10のつるを残す・木の倒れ方、速度が安定する・キックバック防止のためチェーンソーの先端では切らないこと。

（長村）60代という超ベテランに一番事故が多いというお話には驚きました。現在高齢化が進み林業を担っているのが60代だという実態もあるでしょうが、“慣れ”ということの恐ろしさを痛感するお話だと思います。またそれと関連して、夕方4時頃に事故が多いというお話も身につまされました。疲れということもありますが、どうしても仕事に区切りをつけたいという心理が働いて無理な作業をしがちです。こういうことも“慣れ”からくる油断のひとつだと思います。最後に、安全研修はやはり最低でも一年に一度は受講すべきものだと考えます。その意味で本日の当会の参加者の少なさが気になりました。冬の伐採シーズンも始まりですし本日参加できなかった方は、是非時間をみつけて何らかの研修に参加されることをお勧めします。

（高橋）森林作業において、チェーンソーは魅力的な道具の一つである。しかし大きな危険を伴う。今回も木村講師の安全講習を受講した。2種類のテキストを基に基本事項を学び、その後目立てと伐採の実習を受けた。

まず目立てではヤスリを当てる角度、押す回数、ヤスリのサイズ、飛び出し寸法、そして仕上がり具合の確認やソーチェーン刃に対する構えの位置、角度ゲージやスタンドの使用も含め、細かい点まで具体的に丁寧に、納得いくまでジックリ指導戴いた。続く伐採実習ではコナラなどの傾いたり曲がったもの、かかり木の心配されるもの、足場のよくない場所での伐採など、目立てしたばかりのチェーンソーで実際に伐採し、切り跡などの具体例に基づき、危険性や危険防止について丁寧に指導戴いた。途中から雨になり全員の伐採体験は出来なかったが、ポイントをとらえた内容濃い講習であった。

安全については「1：29：300」という「ハインリッヒの法則」がある。「小さな事故」をつぶすことこそが大切だと思う。安全講習は何度受けてもいいと思う。その度に新しいことに気づく。機会があればまた参加したい。有難うございました。テント設営は立派なものでした。参加者にも大好評。設営部隊に感謝。ありがとう。

帰り際、たくさんの栗が拾え、いいお土産が出来た。

（伊藤）安全管理には、プロ・アマの区別はない。考えられる危険因子を丹念に取り除く対応（リスクアセスメント）が重要との指摘が印象的だった。森林作業はマイナーであるが、特殊なものではない。危険と感じたことは遠慮なく指摘し、議論できる雰囲気、人間関係が重要と感じた。年に一度は木村講師の話聞くことを安全のお守りにしたい。

豊英島ニュース（前号のつづき）



2007年7月中旬から9月上旬のセンサーカメラによる豊英島の野生動物調査結果は前号で紹介しました。左写真は前号に掲載できなかったハクビシンです。

2007.07.20

吊り橋下で記録されたハクビシン

豊英島では初記録